

編集後記

平成 17 年 6 月 3 日から 7 月 22 日まで、毎週金曜日の午後 6 時 30 分から、文系総合館のカンファレンスホールにおいて、「日本像を探る 外から見た日本・内から見た日本」というテーマで、国際言語文化研究科主催の公開講座が行われました。

- 1 灯台下暗し、お宝再発掘 仏教と陰陽五行説から見た日本人像
(松本伊嵯子)
- 2 平安文学における「モロコシ」と「ヤマト」 古今集と源氏物語の場合
(胡潔)
- 3 身体知の実践と継承 いま「職人の叡智」に学ぶべきこと
(柴田庄一)
- 4 ウィーンのジャポニスム(西川智之)
- 5 明治初期の「日本」像(前野みち子)
- 6 ドイツ近代演劇と日本古典演劇 ブレヒト、ダウテンダイ、能、歌舞伎
(大庭正春)
- 7 国際化時代に日本を内と外から見る
リービ英雄とノーマ・フィールドを読む (涌井隆)
- 8 侯孝賢監督『珈琲時光』(小津安二郎生誕 100 年記念映画)を読む
(星野幸代)

この公開講座をベースに、今年も『言語文化研究叢書』第 5 号を発行することができました。ここに収められた論文は、上のようなそれぞれのテーマを踏まえて新たに執筆されたものです。

会場から誌面に移り、なお一層充実した公開講座をじっくりとお楽しみ下さい。

『言語文化研究叢書』には、国際言語文化研究科の情報公開の一環として、電子版 <<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/proj/sosho/sosho.html>> がウェブ上にあり、そこでは掲載論文を PDF ファイルで読むことができます。それぞれの執筆者には電子メールなどで忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

今回の編集に当たっては、藤井たぎる先生と古田香織先生にお手伝いいただきました。この場を借りて謝意を表します。

2006年3月 名古屋にて 前野みち子